

カナダ・トロント市の多言語化する小学校における 授業の現状と理論的・実践的課題

日本学術振興会特別研究員
立教大学文学部教育学科
竹内 身和

Email: miwatakeuchi@rikkyo.ac.jp

「北米における文化的・言語的に多様な子どもたちの学習状況と発達活動」
於 名古屋国際センター 2013年12月14日

※本研究の成果の一部は、科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「言語的マイノリティの学習者の発達促進に向けた学習環境のデザインー日加比較研究ー」(12J02927)の補助を受けたものです。

※また、本発表の内容の一部を論じた論文をご希望の方は、上記メールアドレスまでお問い合わせください。

1. 多言語化するカナダ・トロント市における 学校教育の概要

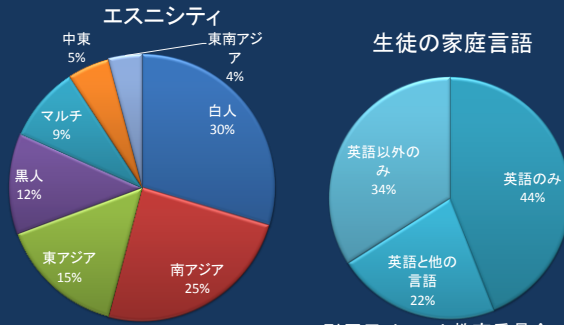
多文化社会カナダと教育

- 1982年 カナダの新憲法の一部として、権利と自由の憲章制定(Canadian Charter of Rights and Freedoms)→ **公用語であるマイノリティ言語(英語またはフランス語)で教育を受ける権利**
- 1988年 カナダ多文化主義法(Canadian Multiculturalism Act)施行→ **継承語教育、人権尊重**
- 1990年以降、カナダでは年間平均22万5000人の新移民を受け入れている→ **ESLプログラムやELDプログラム等提供**

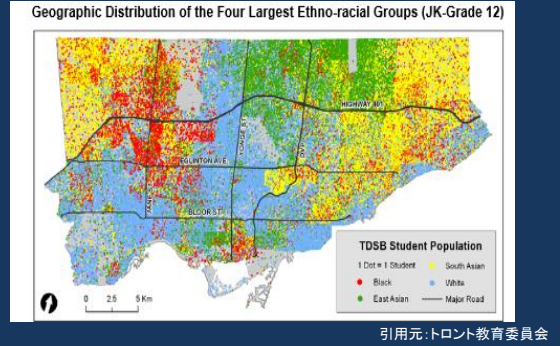
カナダの教育システム

- 州政府が教育に関する法規の制定について独占的権利有する
- 教育目標の開発やカリキュラムの内容は各州、州内の地域コミュニティによって、基本的に異なる
- 地域社会の教育委員会が教育活動やプログラムの実施に関する政策立案と機能決定の権限を州政府から与えられている
⇒ **教育の局所化を支える教育制度**

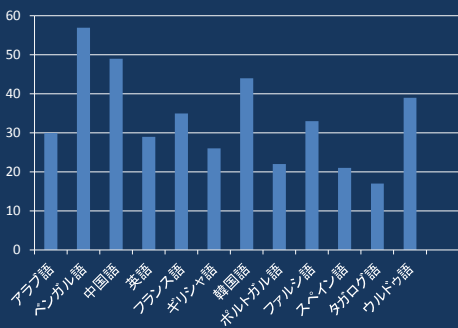
トロントの言語的多様性



トロント市の人種別コミュニティ形成



第一言語別大学進学率



2. 言語的多様性と学習をとらえる方法論的視座

方法論的視座 固定されたカテゴリーから「ポジショニング」へ

固定されたカテゴリーを変数として、生徒の学習を測定することのリスク

1. カテゴリー間の差異 > カテゴリー内の差異という関係性を助長 (Gutiérrez, 2008)
2. 非主流な生徒たちの学校学習における劣位を強調
3. 「学習」を要素に分解

方法論的視座 固定されたカテゴリーから「ポジショニング」へ

ポジショニング Positioning

- 位置づけと位置取り=ポジショニング
- ミクロな相互行為の中で、主体は、ある特定の社会構造上の位置(ポジション)に位置づけられる客体であると同時に、他者からの位置づけを選択、拒否、変更し得る主体でもある (Davies & Harre, 1990; Holland et al., 1998)

既存の「属性」「ステレオタイプ」「カテゴリー」の
ミクロな相互行為における出現・変更可能性

方法論的視座 ポジショニングと学習機会

マルチリンガル児のポジショニングが教室での学習機会に影響する (Moschovich, 2007)

- 1) 「語彙」が不足している存在
 - 2) 「学校特有の言語」が不足している存在
- マルチリンガル児の「欠陥」が固定化・強調されるおそれ
 - マルチリンガル児のもつ「資源」を軽視・無視
- 3) 学校における教科学習実践や複数の言語を媒介する実践へ参加する存在

方法論的視座 学習とは何か

実践の共同体への「参加」と参加のあり方の変化 (Lave & Wenger, 1990)

- 学習を個人内に限定しない
- 学習は全人格的变化を含む

方法論的視座 発達の最近接領域

「発達の最近接領域」(Vygotsky, 1934) を創造する参加

- 現下の発達水準と、子どもが他者との共同のなかで問題を解く場合に到達する水準とのあいだ
 - 言語獲得: 言語的知識 + 文化的知識
+ 言語に対する肯定的価値の予感 (石黒, 2000)
- ⇒ 肯定的価値への予感をもたらし得る文脈

⇔ 「Zo-Ped」 (Vásquez講演)

3. トロント市の言語的に多様な 学校における調査

研究協力校と研究方法

- トロント市内の経済的ニーズの高い地域の学校
- 移民、難民の生徒が多く、生徒約450人 (23%がカナダ国外出身、50%以上の生徒にとって英語は母語ではない)
- 2年間、小学校4年生クラスの算数授業を参与観察
- 1年間はビデオを用いての参与観察

ESL生徒のポジショニング I

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

- カナダに来てまだ年数の浅い生徒たち = ESL生徒
- 社会と国語の時間はESLでの異学年混合授業に参加、その他の時間は他の生徒とともに授業に参加
- 通常授業配置: 生徒3-4人が固まって配置
- ESL生徒たちは、当初、ESL生徒同士集められ、グループワークの時間等も教員から個別指導を受ける

ESL生徒のポジショニング I

座席配置に対する担任教員の見解

- 「このように配置すれば、何度も私からの質問を繰り返さなくてもよいです。ESLの生徒たちだけに繰り返すということもできますし、質問をいくつかの小さな段階に分けたり、絵や図を使ったりすることもできます。」

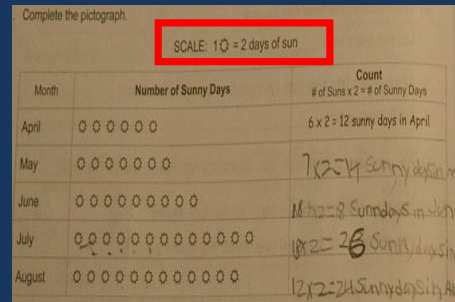
ESL生徒の学習ニーズへの対応

↑
ESL生徒の「特殊化」

焦点児: Daniel

- 「ESL生徒」
- メキシコ出身、スペイン語が第一言語
- カナダのケベック州にも住んだことがあるため、フランス語は英語よりもできる
- ESL教員と担任の評価:「英語は、殆どできない」

3.1. DANIELのポジショニング I



1	T	「Scale(尺度)」を指さしてください。
2	T	Scale [教員はAjmal(ESL生徒)の隣に行き、Ajmalの教科書の中を指差す]

T=教員

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

3	T	Scaleです。いいですか。[教員はDaniel(ESL生徒)の隣に行き、Danielの教科書の中を指差す]
4	T	Scale、わかりましたか。[教員はSabina(ESL生徒)の隣に行き、Sabinaの教科書の中を指差す]これがScale、いいですね。

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

5	T	Scaleとは何ですか。そこから何がわかりますか。Scaleは何をするものでしょうか。	Danielはうつむき、机の下にある物を触っている
6	T	Hatimさん?	
7	Hatim	ひとつの太陽...ひとつの太陽は二日間に等しいです。	

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

8	T	そうですね、ひとつの太陽 [教員、黒板に書き始める]-ひとつの太陽の絵は、二日間に等しいですね。いいですか。これらは晴れている日です。 Daniel?	Daniel、顔を上げ、黒板を見る
---	---	--	-------------------

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

9	T	ひとつの太陽は、晴れている日が二日あることを示しています。	Daniel うなづく
10	T	それでは、これは、pictograph上では、何日になりますか。 [生徒たち挙手をする。Daniel以外は挙手をする。]	Daniel うつむく

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

3.2. DANIELのポジショニング II

• 複数言語話者としてのDanielのポジショニング

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

- 教員自身は英語のモノリンガルで、フランス語は多少できるものの、スペイン語はできない状態
- 同じ教室にいたスペイン語やフランス語のできる生徒たちをDanielのそばに位置づけ、スペイン語をグループワークで用いることで、Danielの参加を促す
- このようなアプローチに対しては、Danielもスペイン語で自分のアイディアを書き、それを英語に通訳してもらおうことで、それまで発することのできなかった声を発していく

担任教員の見解

「偶々、教室にスペイン語を話せる教育実習生がいたので、それを何とか最大限に利用しようと思いました。私自身もスペイン語を学んでみようと思いました。Danielがこの教室で歓迎されているのだと示し、彼にとって居心地良い場所を作るためです。」

⇒ 「英語ができない存在」から、「複数言語のできる存在」へ

⇒ 教室でのDanielの居場所をつくることに主眼

焦点児: Karim

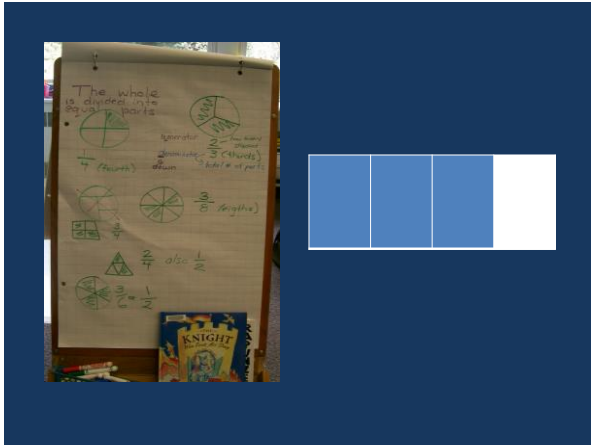
- アフガニスタン出身、パキスタンの難民キャンプからカナダへ、ファルシ語が第一言語
- カナダへ来る以前の学校教育経験は断続的
- ESL教員と担任の評価:「学校の教科学習に遅れ、算数学習の進歩も遅々としている」

3.3. KARIMのポジショニング I

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

- Karimの場合は、当初、ふたつのポジショニングを行き来
- ひとつは、教員の目が行き届きやすい黒板の直前の席で、もうひとつは、授業中によく周りの子どもたちとケンカになることが多く、そのため、席を引き離され、授業後に教員が個別指導を行うというもの
- このような中、Karimは、教室では挙手はしても発言はしない、あるいは他の子どもたちとは異なる活動をしているなど、いわば特殊な存在として位置づけられていく

3.3. KARIMのポジショニング II



- 1 T これはどうでしょう。
- 2 Karim 8分の2
- 3 T 8分の2ですか？
- 4 Karim あ、ちょっと待って。8分の6だ。
- 5 T 8分の6？ちょっと見せて、見せてください。
- 6 Karim [前に出る]
- 7 生徒 [ささやき声] 4つだよ。
- 8 T あなたが言う、「8」を示してみてください。

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

9 [Karimは、ジェスチャーを用いて、長方形が8つに分かれた様子を示す]

10 T [Karimが指差しているのを見ながら] 2、3、4、5、6、7、8

11 T とても賢いです。

(※ 発表時の写真は割愛しているため、内容が不明瞭になっている可能性があります。)

Karimの位置取り: 期待された答え以外のものを提示
 ⇒教員の指導案の変更
 ⇒多様性の承認

- ジェスチャーや図などのマルチ・モーダルな資源を用いての参加

まとめ

ESL生徒のポジショニングの変化

- 想像された「主流」「完成体」から逆算した存在としての「ESL生徒」へのまなざし
- 狭義の「言語」スキルの欠如の強調



ESL生徒の「抵抗」

- 教室での居場所を切り拓く
- 能動性や開花させつつある資源への注視
- 多様な資源の利用と参加の仕方の多様性

日本の文脈への示唆

学校における教科学習実践への参加を強調する立場

- 参加のための手段は、狭義の言語や主流言語に限られない→リテラシーから「マルチ・リテラシーズ」へ (Cummins, 2009; New London Group, 1996)

日本の文脈への示唆

日本の文脈への示唆

マクロ:

- オンタリオ州やトロント市におけるカリキュラムの局所化や多様な選択肢の提供

ミクロ:

- 参加とそのための多様な手段の重視
- 学習者の資源を活かすためのフレキシビリティ

日本とカナダの共通の課題

- 学習場面における言語教授の多様化
- 教員が学習者について学ぶ時間の確保
- コミュニティと学校をつなぐために